

剣道ができる幸せ

大分県

三芳少年剣士会

中学2年 中元緑映

四歳からこれまでの十年間剣道をやってきて私が大切だな、成長したなと思ったことは四つあります。

まずは、礼儀です。オリンピックや何かのスポーツの試合などをテレビで見ていると、勝った時に選手がガッツポーズをする場面がよくあります。私は、それを見た時、ガッツポーズをするのはそれ程うれしいからなんだなと思います。でも、よく考えると剣道ではガッツポーズをすると、一本が取り消しになってしまいます。それはなぜだろうと考えてみると、相手に対してとても失礼だからです。負けた相手の前で喜んだりガッツポーズをしたりすると、負けた相手は不快な気持ちになってしまいます。

剣道は、そのような嫌な気持ちを相手にさせないためにガッツポーズをしてはいけないのだと思います。相手を敬うことができる剣道は、他のスポーツにはない、相手のことをより考えた礼儀正しいスポーツ、武道です。

だから、私は、相手を敬う心や、礼で始まり礼で終わるなどの礼法をととても大切なことだと学びました。

二つ目は、きついことを乗り越える力です。冬の寒い時期にある寒稽古や夏の暑い時期にある朝稽古では、心と体が鍛えられます。なぜかという、寒さ、暑さ、眼気、きつさなどの様々な辛さの中で、それを耐えて稽古をするからです。やっている時はとてもきついですが、それを乗り越えたときには清々しい気持ちになり、達成感があります。だから、きついことも乗り越えようと頑張れます。自分の目の前にきついことがあってもそれから逃げず、乗り越えられる力をこれからも剣道を通して身につけて行きたいと思えます。

三つ目は、仲間と協力することです。剣道では、個人戦も団体戦もあります。団体戦では自分勝手な試合をする人がいるとチームは負けてしまいます。でも、自分以外の人のお蔭で勝ち上がれることもあります。しかし、上位に行くためには、団結、協力が絶対必要です。誰かの一本をみんなで繋いだり、誰かが負けてきた時に誰かが挽回したりすることです。みんなは一人のために、一人はみんなのために全力を尽くすことが大事だと思います。また、試合での場面だけでなく、荷物を持ったり、スコアをつけたり、片付けをしたり協力する場面はたくさんあります。私はそのような場面で率先して協力できるようになってきたので、成長したのかなと思いました。

最後に、剣道ができるのは当たり前なことじゃないんだと強く思えたことです。この二年ほどコロナ禍で稽古をする場面がなかったり、制限がかけられたりして思うような稽古ができなかったからです。私が所属している東部中剣道部、三芳少年剣士会は、たくさんの先生方が来てくださり、生徒もたくさんいるので、充実した稽古を仲間と切磋琢磨しながらすることができます。このようなことは、とてもすごいことなんだなと感謝できるようになりました。

これからも、剣道ができる環境にいることを幸せに感じながら、先生方の教をしっかりと聞いて活かし、仲間とお互いを高め合いながら稽古をしていきたいです。そして、これからも、剣道に限らず、学校生活や学習、日常生活の中でたくさんきついことや厳しいことがあると思うけれど、剣道で学んだこと、成長できたところなどを様々な場面で活かして乗り越えられるように、これからも剣道を頑張っていきます。